



古市工業団地

Q 企業誘致の責任は責任を感じている



安部誠也議員

合併直前の赤来町時代にサブロ島根は誘致され、約1億円をもって古市工業団地が造成された。

用地造成については議会にも議決責任があるが、議案提出後1時間で賛否を問われ、議会軽視と言われても仕方のない状況であった。

当初はパートを含め135人の雇用と4億3390万円の経済波及効果があるといわれており、7年目の現在、約20億円を失った計算になるが、責任を感じているのか。町長の肝入りで企業立地した経過から一刻も早くこの土地を活用するべきだ。

きだが。

山崎英樹町長
サブロ島根は計画に程遠い状況で、責任を感じお詫び申し上げます。
新たな企業誘致に向け情報の収集を行っているが可能性のある企業はない。

Q 県の観光企画の対応は森林セラピーを生かして

安部議員

25億円を投じて島根県の観光キャンペーン「神々の国しまね」古事記1300年〜が平成22年度から4年間行われる。雲南地域はヤマタノオロチ伝説の舞台だが、本町は古事記や日本書紀等に記載が無く、出雲風土記に琴引山や三瓶山が出てくる程度で、本町の埋没が危惧される。

県は市町村に対し、職員の派遣と5億円を負担するように求めている。地理的に出雲地方の南の

Q 行政評価制度の導入は振興計画に定めていく

安部議員

厳しい財政状況のもと最小の経費で最大の効果を挙げるには、効率的、弾力的な行政運営が必要だ。全国的に多くの自治体で行政評価システムを導入している。本町も総合振興計画に導入するとあるが、対応は。

山崎町長
年度は定めていないが、今後具体的なことは定めていく。

そのほか「雪害の対策本部設置の基準と連担地の除雪対策について」の質問がありました。

Q 責任ある町政を福祉向上に最善



石原敏郎議員

山崎町政は、手段と目的の混同・あまりにも言葉が軽すぎる・重要課題に町長の姿が見えないなど、理念なきダツチロール状況だ。

「やるべきことを放置すると罪になる」という観点にたち、町政執行に責任をもつべきだが、どうか。

山崎英樹町長

町の最高責任者として、町民の思いをしっかりと胸にとめ、言葉が軽いということではなく、町民の皆様方の福祉向上に向け最善を尽くす決意だ。

Q 役場新築は反対 財政措置で対応

石原議員

私は、本庁方式をとるべきだという立場だが、庁舎建設には反対だ。

次の町長選は平成25年1月だが、直後に新庁舎を建設するのは、将来を大きく左右するので思いとどまるべきだ。町民に賛否を聞いても賛成者はいないが、この実態をどうとらえる。

山崎町長

新庁舎建設は、有利な借金である合併特例債を予定しているが、利用期限が平成26年度までで、私の任期云々ではない。賛成者がいないという

が、庁舎は何十年の拠点施設となるものだ。国の財政や地方の財政状況はますます厳しくなると予想されるので、財政措置がある今、整備するという観点だ。

Q サプロとの関係は運営の見直し後に

石原議員

サブロ島根へ対し、町出資によるニセク化実施、経営悪化に3000万円を貸付、経営陣の相次ぐ交代を看過するなど失態続きだ。また、今議会のサブロに関する補正予算は、典型的な問題先送りと悪質な救済策で非常識だが。

山崎町長

町の活性化に有効な事業であり、ぜひ成功させ



サブロ島根

Q 「もりのす」の備えはスタッフとともに

石原議員
再開を控えた「もりのす」だが、島根県民の森・ふるさとの森・もりのす・森林セラピー基地と、利用者にはわかりにくい。今後どう対処するのか。

また、「もりのす」ではマクロビオティック料理を提供すると聞くが、これは無双原理という深遠な思想に基づいたものだ。町長もフロンティアあかぎと価値観を共有して、その名に恥じない料理を提供すべきだが。



「もりのす」のマクロビオティック料理

山崎町長
利用者の視点で、パンフレットなど、分かりやすい名称・資料・PR方法を行う。

私にマクロビオティックの知識はないが、フロンティアあかぎの若いスタッフから提案があった。生命地域飯南町、また、森林セラピー基地の理念をあらわす料理として取り組みたい。

※マクロビオティック
一般的には「玄米菜食」による食事療法のこと。玄米をよく噛み、季節の野菜を使った発酵食品と味噌汁を頂くことが中心となるが、単なる食事療法ではなく、宇宙の秩序や自然界の法則に基づき、人間が真の幸福に至ることをいう。